



日本の植物学の父 「牧野富太郎の植物標本展」を開催！

と き 7月27日(土)～9月8日(日) 午前9時～午後5時

ところ 区立牧野記念庭園記念館(東大泉6-34-4庭園内) / 入場無料

世界的な植物学者で、「日本の植物学の父」と呼ばれた牧野 富太郎博士の住居跡を整備した区立牧野記念庭園で、「資料展～牧野富太郎の植物標本～」が7月27日(土)から開催される。

博士が各地で採集を行い、一つ一つ丁寧に作成された植物標本は、生涯で40万点にのぼるとされており、現在も貴重な研究資料として保存・活用されている。

本展では、成東(千葉県)、日光、真鶴での採集エピソードを植物標本と解説パネルで紹介するとともに、牧野標本館から寄贈された植物標本約30点を展示し、博士の採集活動と標本作製の様子を振りかえる。



高尾山にて植物採集している様子(1933年)

【日本中を旅して各地の植物を採集した牧野富太郎博士】

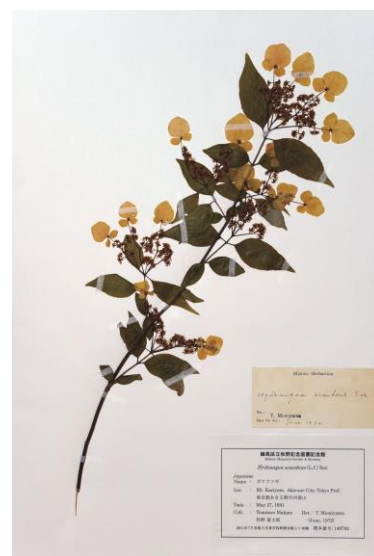
植物学者牧野富太郎(1862-1957)は、その生涯に1,500種類もの植物に学名を与え、40万点にのぼる植物標本を作製している。

博士が各地で採集して押し葉にした植物は、その没後1958(昭和33)年に東京都立大学(現首都大学東京)に設立された牧野標本館へ移され、その後半世紀以上に渡り、研究資料として保存・活用するための整理作業が行われた。本展では、牧野標本館から寄贈された植物標本約30点を展示し、博士の採集活動と標本作製の様子を振りかえる。

また、常設展示室では、牧野富太郎が使用した採集道具や描画道具、『大日本植物志』や『牧野日本植物図鑑』などの著作、ゆかりの品々を展示し、博士の業績と生涯を紹介している。

学芸員による展示解説

9月7日(土)の午後2時30分～2時50分(当日受付・参加費無料)



牧野博士が採集したガクウツギ(1931年)

【区立牧野記念庭園の紹介】

牧野富太郎博士が大正15年から94歳で亡くなる昭和32年まで居住し、自らが採取してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。

博士の死後、この植物学ゆかりの聖地を広く一般に開放し、牧野の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が昭和33年に開園した。園内には300種類以上の草木類が植栽されており、スエコザサ、センダイヤ(サクラ)、ヘラノキなど、大変珍しく学問的にも貴重な植物も多数見ることができる。

●交通案内：西武池袋線「大泉学園駅」南口下車 徒歩5分

●開園時間：午前9時～午後5時、火曜日(火曜日が祝休日にあたる場合は開園、その直後の祝休日でない日を休園)および年末年始休園、入園無料

【問い合わせ】花とみどりの相談所 電話 03-3976-9402